

## 第2章 「キャリアポートフォリオ」

### 2. 1 「キャリアポートフォリオ」導入の背景、期待した効果および運用科目 2. 1. 1 導入の背景

3年次後半の進路面談の場で「君の成績では、その会社にはいけない」と聞かされた学生は、自分の将来の「可能性が絞られた」と感ずる。多分その学生は、「そのことをもっと早く知っていれば、一年次から然るべき努力をしたのに」と考える。これは、キャリア教育以前の進路・就職指導に付きまとうイメージであるが、キャリア教育（キャリアデザインとそれに沿ったキャリア形成）では、「1年次から卒業時を見据えて自立自助的に各自の可能性を広げる」行動を開始することが求められる。また、優れた人材を選別するため、採用の現場（面接等）では、応募者の行動特性を深く知ろうといろいろな角度からの質問をしてくる。

行動特性は、それぞれの応募先への志望動機にも現れる。学生との面談を通じて、志望動機や面接対策として、個々の学生の過去の行動特性を掘起こし、ストーリー性を浮き彫りにする作業は、個人情報保護法の施行以降、教員、学生共、それぞれにやり難さを感じてきている。また、目覚めた学生でも将来に向けて現状突破しようとしてもその方法がわからず行動開始が遅れる事例など、これらの解決に繋がるポートフォリオの手法は、上記背景の下で「自ら考え行動する技術者の育成」を教育目標として掲げる本学としても高い整合性を持つツールと判断したのである。

### 2. 1. 2 導入に際して期待した効果

社会に出た後も自己成長型のキャリアデザインとキャリア形成を続け、自立自助的に自らを生かして生きていけるために 在学中にそのための有効な手法であり、下記の効用・効果を持つポートフォリオへの書き込み方法と活用法を日常化、習慣化するレベルで身につけておくことは、学生にとって大きな財産となる。

一般的に、過去の出来事や感じたことは、その経緯や場の状況、背景を含め、人の記憶は薄れ、確実に失われる。また、時間の経過と共に人は、成長して考え方、感じ方も変わって行き、社会情勢も変わる。一度描いたキャリアデザインも変化して当然であり、人生の節目々々で書き直す必要がある。自分の辿ってきた足跡を振り返ると、その中に新しい出会いや節目といえるものがあったはずである。その節目でどんな進路選択や判断をしたか、その判断について今はどう考えているか、などについて自分の考えをまとめて記録に残しておくことは、次の節目の進路選択の際に大きな力になる。

各自の自分史、自己実現目標、想定自分像などは、「キャリアポートフォリオ」上に記録として残し、毎日の正課と課外の活動、インターンシップや夢考房活動などでの新たな出会いを通じて得たもの、感じたことをその都度記録に残す。これらを今後にどう生かすかについても各自の考えをポートフォリオ上に登録する。記録を積み重ねると、記録の中の変化や進歩に気付く進化した自分を発見できる。これが、ポートフォリオシステム活用の狙いと効用である。ポートフォリオ上の記録から小さな「気付き」「小さな自信の芽生え」を読み取り、目標への接近

度や達成度の定点確認を行い、次の行動設計に反映させて自己成長型のキャリアデザインとキャリア形成を進めることが必要である。

## 2. 1. 3 運用科目

このような事情によって本学のキャリア教育体系は、以下のようにまとめられた。

- ①これまでの自分史の振り返りと現在の自分像の内面探求を行う。
- ②自己実現目標に整合した卒業時点の自分像を想定する。
- ③在学中に現在の自分像を各自の想定自分像にまで成長させる。
- ④成長のために本学の正課と課外の教育的仕掛けを最大限活用する。インターンシップや夢考房活動などの課外活動に主体的に参加する。
- ⑤その達成度を 在学中、ポートフォリオシステムを活用して隨時 自己点検を行う。
- ⑥自己点検の過程で心のアンテナを全開にして「小さな気づき」、「小さな自信の芽生え」を読み取り、それらを踏まえて次の行動を設計する。
- ⑦上記の自己点検を繰り返し、自己成長型のキャリアデザインとキャリア形成を進める。
- ⑧これらの結果、想定自分像への可能な限りの接近と「自分でもその選択が妥当と思える進路や働く場」の発見と確認を可能とする。その結果、「社会へ出て自分を活かして生きていける自信」を獲得できる。

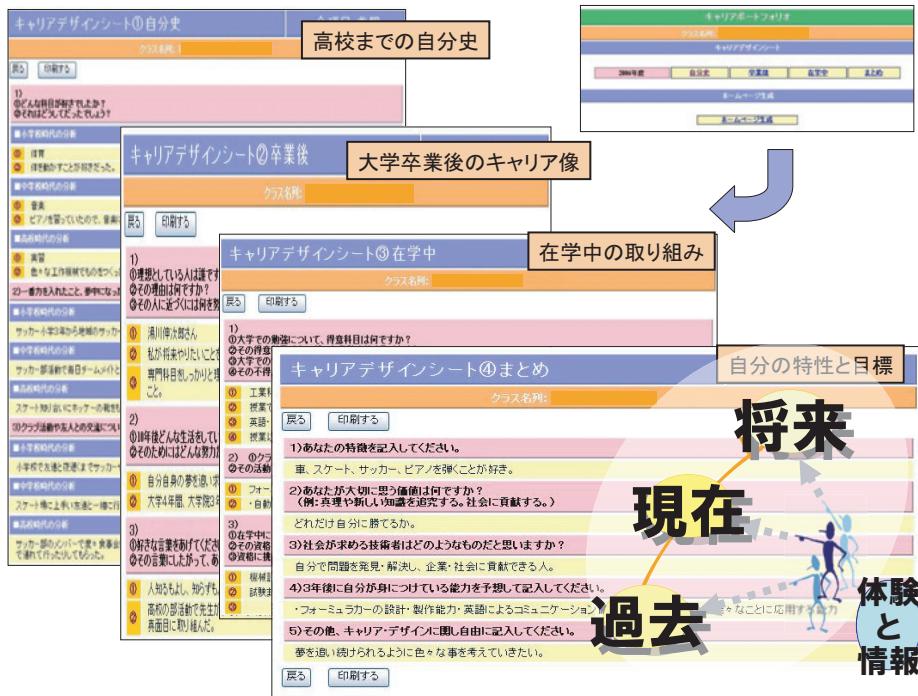
これらは在学4年間における継続的内容であるため、1年次学生からスタートする必要が求められた。そこで平成16年度から「キャリアポートフォリオ」の導入にあたり、「自己啓発セミナー」の内容を一新した「進路ガイド基礎」を開講した。本科目の学習・教育目標（平成20年度）は、以下の4項目である。

- ①自分の将来の目標を設定する必要性やそのための手法を主体的に学ぶための基礎的素養を養う。
- ②キャリアデザインの重要性を学び、学生時代に獲得すべき目標を設定し、主体的に行動できる習慣を獲得する。
- ③継続的に自ら行動目標と結果を明確にし、ポートフォリオを利用した「キャリアデザイン」の自己管理ができる素養を養う。
- ④3年次に行う自己アピールシートの作成や就職活動のエントリーシートの作成に必要な情報を蓄積できるキャリアデザインレポートを作成する。

## 2. 2 「キャリアポートフォリオ」の運用

「進路ガイド基礎」では、キャリアデザインや本学の教育の特徴等に関する講話、自己を理解するための心理テストおよび、グループ討議などを行うが、その特徴的なことは以下の「高等学校までの自分史」「大学卒業後のキャリア像」「大学在学中の取組」「自分の特性と目標」、

4つのキャリアデザインシートからなる「キャリアポートフォリオ」を登録し、「キャリアデザインレポート」【図2-1】を作成することにある。



【図2-1】キャリアポートフォリオ

## 1. まず幼稚園から小学校・中学校・高等学校までの「自己史」を作成する

- 1) ①どんな科目が好きでしたか?  
②それはどうしてだったでしょう?
- 2) 一番力を入れたこと、夢中になったことは何ですか?
- 3) クラブ活動や友人との交流についての思い出は?
- 4) 感動した出来事や、本、映画、イベントなどはありませんか?
- 5) 将来、何になりたいと思っていましたか?夢は何でしたか?
- 6) ①自分の長所はどんな点にあると思いますか?  
②具体的なエピソードを添えて記入してください。
- 7) ①自分の短所はどんな点にあると思いますか?  
②具体的なエピソードを添えて記入してください
- 8) 趣味や特技は何ですか?
- 9) 第三者(保護者、先輩、友人)は、あなたの長所、短所についてどのように話していますか?
- 10) KITに進学した目的は何ですか?
- 11) この学科を選んだ理由は何ですか?

2. 入学時点で描いている「大学卒業後のキャリア像」を作成する。

- 1) ①理想としている人は誰ですか?
  - ②その理由は何ですか?
  - ③その人に近づくには何を努力する必要がありますか?
- 2) ①10年後どんな生活をしてみたいと思いますか?
  - ②そのためにはどんな努力が必要ですか?
- 3) ①好きな言葉をあげてください。
  - ②その言葉にしたがって、あなたが過去に行動した事柄を具体的にあげてください。
- 4) ①保護者の方が働いている様子をどんな風に感じていますか?
  - ②それはどんなときに感じますか?
- 5) ①働く目的とは、どんなものだと思いますか?(箇条書きでできるだけ沢山あげてください)
  - ②あなたが該当するのはその内のどれですか?
- 6) ①どんな職種・仕事に就こうとしていますか?
  - ②なぜ、その職種・仕事を選びましたか?

3. 大学での4年間をどのように過ごすのか、何をやるのかなど「大学在学中の取組」を作成する。

- 1) ①大学での勉強について、得意科目は何ですか?
  - ②その得意科目は主にどんな勉強方法を取りますか?
  - ③大学での勉強について、不得意科目は何ですか?
  - ④その不得意科目は主にどんな勉強方法を取りますか?
- 2) ①クラブ活動、プロジェクト活動など、大学に関係する活動でどこかに所属していますか?
  - ②その活動を通してどのようなことが得られると思いますか?
- 3) ①在学中にチャレンジしようと思う資格は何ですか?
  - ②その資格を取得するためにどのような計画・行動をしますか?
  - ③資格に挑戦することでどのような人間力がつくと思いますか?
- 4) ①アルバイトやボランティア活動など、どのような活動をしようと思いますか?その動機は?
  - ②それを通して、どのような人間力がつくと思いますか?
- 5) これからの学生生活に、どのような心構えで臨みますか?

4. 自分の特性、職業観および目標を描き出す「自分の特性と目標」を作成する。

- 1) あなたの特徴を記入してください。
- 2) あなたが大切に思う価値は何ですか? (例: 心理や新しい知識を追求する。社会に貢献する。)

- 3) 社会が求める技術者はどのようなものだと思いますか?
- 4) 3年後に自分が身につけている能力を予想して記入してください。
- 5) その他、キャリアデザインに関し自由に記入してください。

これが終了すると、継続的に自己を見つめ、行動目標と結果を確認できる「キャリアデザインレポート」を作成することになる。つまり入学直後の自己を分析・評価し、将来に対する見通しをもって人生を設計する一連の作業は、キャリア像を媒体として大学における修学モチベーションを高めるためのツールなのである。これが3年次の選択科目「進路セミナーⅠⅡⅢ」に連動するようになっている。

平成7年、本学ではキャリアデザインを学習する1年次必修科目「自己啓発セミナー」を開講したが、他大学教員から「金沢工大は入学直後から就職対策を行うのか、いくらなんでもやり過ぎではないか」との批判を受けたと担当教員から報告があった。当時キャリアデザインは就職対策そのものと理解される用語だったのである。これがまったくの誤解であったことは、今日各大学が挙ってキャリア教育を実施していることからも明らかであろう。

## 2. 3 「キャリアポートフォリオ」の運用成果

授業アンケートの自己評価として「自己の将来目標の設定に必要な知識や情報収集に関する感想文を書ける」の達成度(%)を100%～0%まで20%単位で記入する項目がある。【表2-1】は平成16年度から平成20年度におけるその達成度に対する学生の自己評価割合である。

【表2-1】

「自己の将来目標の設定に必要な知識や情報収集に関する感想文を書ける」に対する割合

達成度	100%	80%	60%	40%	20%	0%	回答数
平成16年度	11.3%	41.6%	34.3%	9.3%	2.6%	0.9%	1,593
平成17年度	10.5%	35.5%	35.7%	13.7%	4.0%	0.6%	1,611
平成18年度	9.5%	35.6%	36.0%	13.9%	4.6%	0.4%	1,653
平成19年度	8.3%	43.7%	37.0%	8.4%	2.2%	0.4%	1,608
平成20年度	6.0%	41.7%	41.3%	9.0%	1.6%	0.4%	1,605

これによると学生の90%近くが「達成度60%以上」と評価しているが、その具体的な理由は本授業アンケートからは読み取れない。そこで同アンケートから「キャリアデザイン」そのものに関する感想・自由記述を挙げておきたい。

肯定的な記述として数例挙げておくと、

- ・キャリアデザインの講話で、将来について深く考えられてよかったです。
- ・自己を見つめなおして、将来について考えることができたので良かったと思う

- ・講話の中で先生の実体験をふまえた話や、大学でやるべきことを教えてくれたことは将来の自分を考えるためにあって良かった。
- ・自分のことを分析して自分の在学中の目標を設定して将来のデザインを設計することができた。
- ・1年生の時の進路の学習なので親しみにくいものかと思っていたが、春学期を終えた今、大分自分の進路の定め方について考えられるようになったと思われる。1つ言えば、学科についての専門の学習があったのちにこの授業を受けた方が良いと思った。
- ・キャリアデザインの書方についてくわしく教えてもらい、今後自分がどのようにしたら良いか分かった。
- ・自己史作成を通じた自己分析は今後自己をコントロールするために必要なので、もっと多く組み込んだ方がいいと思う。
- ・今、というより4年次にこの時の記録が役に立つと思う。
- ・自分の過去、現在を振り返り、未来への目標というものが少し見えてきた。
- ・自分の過去を振り返り未来を考えることを知らなかつた自分を見つける、新たな私をつくりだすもととなつたところが、良かった点だと考えています。

などがあり、その数は多い。多くの学生が現在の自分自身を見つめ直す機会をもち、将来の自己実現に向かってモチベーションが向上したのであれば、入学直後に開講する本科目の目的は一定程度達成されたことになる。

一方、数は少ないものの否定的な見解としては、

- ・授業内容は今後役に立つ情報が頂けなければ意味がない。
- ・自己史を書くには1年の6月は早すぎると思う。
- ・資格を取れとか勉強しろとか言わなくていいと思う。大学生なのだから自分で考えてやればいいと思う。
- ・小学校の学活にやったことをまたやるのはだるい。キャリアデザインはとっくに描けている。
- ・私達の事を馬鹿にした言い方で聞いていて不愉快でした。進路ガイド基礎と関係のない授業はしないで下さい。
- ・やる意味がわからない。何を言っているのかわからない。自分の意見をおしつけている。

などが挙げられる。すでにキャリアデザインを経験している学生、自分で考える問題と判断する学生はすでに積極的行動をとっているものと見られ、大学の授業としての必要性に意味がないと理解しているようである。なお学生に不快感を与える教員の発言へのクレームは内容が不明のため対処できないが、学生の自立心を損なわないよう慎重に対処すべきであることは、本科目に限つたことではない。

また平成19年度教職課程の「職業指導」(4年次配当)において、「ポートフォリオ活用実態」

の調査が行われた。対象となった学生は「キャリアポートフォリオ」1期生122名であり、その後の継続活用がどのような状況にあったかについての興味深い下記の報告がある。

この調査アンケートにおいて、ポートフォリオに否定的な見解を述べる学生やポートフォリオを活用しなかった学生の中には、就職活動の実戦を通じて、ポートフォリオの価値を改めて知り、後輩には十二分に活用するよう奨めると答えている。また日記、ブログ、SNSを活用してポートフォリオと同等の効果を確認後、本学のポートフォリオサーバーに書き込みを始める学生もいて、年々ポートフォリオ対応のサーバー機能を増強しなければならないほどポートフォリオ活用レベルが向上していることも伺わせられる。1年次授業終了時の感想は本科目の重要性を理解できない学生が多くとも、3年次で受講する「進路セミナー」や就職活動を開始するときに「キャリアデザイン」の重要度に気づき、「キャリアポートフォリオ」を積極的に活用している学生も多くみられるのである。また4年次の進路相談を担当する教職員から、「キャリアポートフォリオ」の導入後は、職業選択に対して自分の考えを持った学生が増加したとの感想も寄せられている。

これらは良好な結果ではあるにしても、教職志望学生を対象としたもので全学生を対象としておらずサンプル数が少ない。また厳密にいえば、教員のいわゆる感触・手応えが含まれている。さらに学生はこの調査を「キャリアポートフォリオ」についてのみ回答しているわけではなく、「修学ポートフォリオ」を含めた意識で答えている。これらの点は留意しておくべきであろう。

## 2. 4 展望と課題

本科目は平成20年度まで専門課程の進路主事および進路アドバイザーが担当していたが、授業内容は平成21年度から「修学基礎」に組み込まれ、1年間を通して分散配当されることになっている。修学生生活指導とキャリアデザインがクラス担任である1年次修学アドバイザーに一本化されることになるわけで、初年次教育としての教育効果はさらに上がるものと期待している。

しかし、すでに高校生までにキャリアデザインを自覚し積極的行動をする学生に満足を与えるためには、キャリアデザインシートの設問の内容と記述内容に関する工夫が必要である。また「キャリアポートフォリオ」に登録された内容を単なる夢に終わらせるのではなく、有効かつ継続的に活用させるためには、3年次の選択科目である「進路セミナー」に任せただけではなく、専門科目においては授業の折に現実の最新情報を提供し、学生に夢と現実を冷静に対比させる機会を与え、より具体的な人生設計、ロードマップ作成を考えさせることも重要であろう。